

# 令和２年度 学校経営方針（６月改訂版）

杉並区立堀之内小学校

校長 渡瀬 穰介

## １ 概観

令和元年度末からの新型コロナウイルス流行は、３か月にも及ぶ臨時休校をもたらし、更に日常生活や全ての教育活動において、感染予防を根底に置かざるを得なくなりました。また学習内容においても、さまざまな見直しを図ることが必要となっています。そのため４月当初に公開した学校経営方針についても、若干の見直しをいたしました。

本校の目指す教育については変わるものではありませんが、その方法や実現のスパンについては大胆な見直しを図っていくことになります。

## ２ 学校の教育目標

本校の学校教育目標は、次の三つです。

考える子ども（知）

やりぬく子ども（体）

◎助け合う子ども（徳） ◎は重点目標

知・徳・体育はそれぞれに柱となるものですが、最も重要なのは心を育てることです。心は徳育だけで育つものではなく、自己肯定感や他者との共感を持つための、確かな学力や健やかな体力という実績、実感に裏付けられたものと考えます。

学力や体力については、長い休業期間に伴う授業時数の減や体験的活動の制限がありますが、年間の学習計画を見直して、学校ならではの学びの充実を目指します。

堀之内小学校の教育活動は、確かな学力、健やかな体を育てる教育実践の基、豊かな心をもって生きる力をもつ児童を育てることを目指します。

## ３ 学校の課題（めざす学校像）

- （１）児童 確かな学力と健やかな体に裏打ちされた豊かな心をもつ児童を育てます。
- （２）教師 研鑽に裏付けられたプロ教師としての意識をもち実践する教師を育成します。
- （３）施設 安全な環境、安心できる運用がなされる学校施設環境を作ります。
- （４）家庭・地域との連携 「全ての大人で全ての子供を育てる」意識の共有を図ります。

## ４ 学校の問題点

児童：学力、体力の得点は高く、学習態度、生活態度なども落ち着いています。それに相応しい自己有用感、自己肯定感を育てていきます。

教師：全体として児童の気持ちに寄り添う丁寧な指導が行われていますが、個々の教員の経験や特性は違いがあります。個人の資質を伸ばしつつ、それぞれの得意を活かす組織的対応を

進めていきます。

施設：充実した ICT 機器、施設管理面での多様な人材配置などが行われています。適切な維持管理を行い、無駄のない効率的な運用を進めます。安心を共有できる運営を行います。

家庭・地域との連携：学校の教育活動に理解的で協力的な地域・保護者に恵まれています。更に教育の効果を上げるため、新しい学習指導要領や学習観、取り組み方などを学校公開や ICT ツール、学校だよりなどを使って、日常的な情報の共有を図ります。

## 5 実現の手立て

### (1) 考え方

杉並区立学校は多くの職員、スタッフが支えています。その総力の向上こそが、めざす学校像の実現に繋がります。そのために校長は、進む方向性（教育目標）を明示し、職員にビジョン（現れる姿）を共有させます。副校長は教育ビジョンを具現化するために、業務上の各チームに指導・助言を行い、適正な進行を管理し運営します。

教職員はそれぞれの専門職であるプロ教師、プロ職員として、誇りと目的意識と目的達成手段をもった教育組織を目指します。

コロナウィルスによる感染リスクは、今後数年間にわたるとの予測もあります。感染予防を根底に置いた生活の仕方、学びの方法を日常化していく必要があります。学習のスタイル、行事の在り方、コミュニケーションやプレゼンテーションなどの社会的能力を、新しい生活様式の中で伸ばしていく方法を模索し、実践していきます。

教育は、学校教育、家庭教育、社会（地域）教育の3つが連携して実現するものです。「全ての大人で全ての子供を守り育てる」教育を実現するために、学校と家庭・地域との情報共有を進め、協働を図ります。

### (2) 方向性

- ① コロナウィルス対策を徹底する中で、児童の学びを最大限に伸ばす取り組みを工夫します。
- ② 堀之内小の「お日さまの指導」を実現します。
- ③ ユニバーサルデザインの考えに基づく教室経営を行い、必要な児童に、合理的な配慮に基づく個別の支援を提供します。
- ④ 「主体的・対話的で深い学び」の実現を図り、考える子を育てます。
- ⑤ 人権尊重の精神を基盤にして、「全ての人の心と命を守る」教師と児童となることを目指します。
- ⑥ 全ての大人が全ての児童を守り育てる学校を目指します。
- ⑦ 児童がふるさと（人・地域・自然・歴史・文化）を大切にする心を育てます。
- ⑧ スポーツを通して、児童の成長する喜びを育てます。
- ⑨ カリキュラム・マネジメントの考え方にに基づく教育課程編成の工夫を行います。

### (3) 手立て（具体的な取り組み）

堀之内小学校では、以下の取り組みを手立てとして、方向性の実現を目指します。

#### ① プロ教師としての資質の向上

- ・指導者にふさわしい服装、責任者としての名札、丁寧で毅然とした言葉遣い、ふるまいを心がけます。
- ・「お日さまの指導」を実践します。
- ・児童の特性の違い（発達障害を含む）を学び、個別の指導計画に基づく、一人一人を認める指導の実現を目指します。
- ・教員の資質の向上を生むために、慣例的に取り組んできた「やった方がいい」事業の見直しを図ります。

#### ② 研修、研究の充実

- ・コロナウィルスの感染予防を踏まえた学習指導法の研修を行い、指導方法を工夫します。
- ・会議を精選し、生み出した時間で研修を充実させます。

#### ③ 学校組織運営の工夫

- ・職層に応じた役割を明確にし、縦横の連携を意図的に行います。
- ・業務分掌ごとにチーフを置き、事業をチーフ主導で進めます。会議を減らすために、事業ごとに事業評価書を作成し、成果を数値化することで、効率化します。
- ・学級担任、専科担任が、児童の指導に責任をもってあたります。
- ・堀小学習スタンダード・生活スタンダードを活用し、指導の効率化を図ります。
- ・保護者の相談の内容に応じて、担任、+学年主任、++主幹教諭、+++副校長、++++校長の面談を設定し、必要に応じて学校全体で即時対応する体制を作ります。

#### ④ 新しい学習指導要領の完全実施

- ・特別の教科道德の指導方法研修や評価研修を行います。
- ・JTE、ALT を活用して、担任が指導する生きた外国語（英語）学習の時間とします。
- ・カリキュラム・マネジメントの考え方に基づく、教科横断的な学びを整理します。教科別単元の横断ではなく、内容、考え方で共通、応用できる横断を整理し、指導に生かします。

#### ⑤ 教育活動の工夫

- ・ユニバーサルデザインの考え方に基づく環境整備を進め、合理的な個別の配慮を進めます。イヤーマフ、パーティションパネルを使ったパーソナルスペースを作り、必要な場面で活用します。生活の流れを表示するホワイトボードを教室に設置します。
- ・校外学習をキャリア教育の一つと位置づけ、社会性を学ぶ学習とします。
- ・カリキュラム・マネジメントの一つとして、教育活動の見直しを図ります。ねらいが重複する特別活動の取り組みの取捨選択、教科と特別の教科道德や総合的な学習の時間のねらいを横断的に関連し、学習の効果向上を図ります。

コロナウィルスの感染状況に鑑みつつ、

- ・感染予防を目的とするパーティションや座席配置の工夫、学習場面での発表の仕方など工夫し、児童の主体的な学びを深めます。
- ・第6学年で、学校支援本部が中心となって運営する職業体験学習に取り組めます。中学校体験入学で、進学に対する意欲を育てます。
- ・グリーンキーパーや千日紅市プロジェクトと連携し、芝生校庭や千日紅栽培に取り組む、環境教育を進めます。
- ・体験的な音楽活動を通して豊かな情操を養います。
- ・総合的な学習の中で、近隣の介護施設や障害者支援団体と連携し、障害者理解や認知症の理解を深め、温かい社会づくりの意識を育てます。
- ・特別活動の縦割り活動を通して、高学年は責任感と実現力を、低学年は成長の目標をもたせます。

#### ⑥ 家庭・地域との連携

- ・一斉メール、学校ホームページを活用し、速やかで確実な情報共有を図ります。通常のお便りやメールに加え、日本語を母語としない方にも分かり易い「ユニバーサルデザイン版の文書」を作成し、お知らせします。
- ・学校の支援者、助言者、諮問機関としての学校運営協議会と共に、地域との連携を深めます。
- ・学校支援本部と連携し、地域社会や近隣学校とつながる取り組みを進めます。
- ・学校公開日の「校長談話室」、学校アンケートなどで情報共有を進めます。
- ・学校だより、学校経営方針、学校の教育活動の目標や内容など学校からの情報を、読みやすく理解しやすいものとして提供します。

堀之内小学校は、教職員、保護者、地域、児童が手を携える「みんなで育つ」学校になろうと考えます。ご理解とご協力をお願いいたします。